建築用金属内外装材の「フロント」

ステンレスを独自研磨仕上げ

多彩な空間デザイン追求

機能も維持

建築用金属内外装材の製作・工事業のフロント（本社・東京都新宿区、社長・松川博行氏）は、独自の研磨手法を駆使した金属仕上げ技術「FRONT CRAFT（フロント クラフト）」を鋼板表面に施したステンレス「クラフト ステンレス」をラインアップに加えた。

「クラフト ステンレス」は、耐食性の高さや強度、加工性の良さといった従来ステンレスが持つ機能を維持したまま、カラーステンレスならではの限られた色調や補修できないといった課題を解消。これまでの「フロント クラフト」シリーズと同様に、特許技術に基づく所定の塗装や薬剤などで生成した色層を熟練の職人が手作業で磨き上げる。

黒と白、ブラウン系の3種類を基準色として取りそろえ、ユーザーの要望に応じた特注の仕上げにも対応。唯一無二のテクスチャーを実現し、ステンレス表面に重厚で深みのある上質感を醸しだす。施工後も補修可能な上、第三者機関の塩水噴霧試験で高い防食性が証明されており、エクステリアとして屋外でも安心して使用できる。

フロントでは、金属材料の中でも幅広い用途が特徴のステンレスに対し、独自の研磨手法による新たな仕上げ技術の研究開発に取り組んできた。耐候性鋼の仕上げ加工で培ってきたノウハウをベースに、高耐食性めっき鋼板で同技術の採用機会を広げる中、ステンレスをめぐる「かつてない表現」（同社）の実用化を通じて、多彩な空間デザインを追求していく。

弘前れんが倉庫美術館（青森県）では、サッシと扉、インターホンパネルに「クラフト　ステンレス」を採用